Newsletter of Catholic Omiya Church
おおみや教会通信

11月は死者の月です。11月1日のミサでは帰天された方々のために心を一つにして祈りました。

さて日本でも20年ほど前から普及してきたハロウィンの起源はカトリックだったことを知る方はあまり多くないと思います。

元々は中世ヨーロッパで貧しい人々が11月1日（諸聖人の日）と11月2日（死者の日）の間に、家から家へと食べ物を乞うために訪ね歩いたことが起源だとされています。彼らは代わりにその家の亡くなった愛する家族のために祈りを捧げると申し出ました。カトリックの家庭はこの日はあらかじめ彼らに与える食料を用意するようになり、より裕福な家庭では当時贅沢品だった甘いお菓子を用意しました。ここから菓子を贈る習慣が生まれました。この伝統は16世紀まで続きましたが、死者の魂のために祈る考えを否定するプロテスタント教会の進展により姿を消し、20世紀になると全く違う意味のお祭りとして広がり始め現在に至ります。



私たちは本来の意味を損なわず、小さくされた方々に奉仕すること、帰天された方々（天国にいる方、煉獄にいる方）のために祈ることを続けていきましょう。

初聖体おめでとう

10月25日の主日のミサの中で北区の中澤真波人さんが初聖体を受けました。おめでとうございます。

喜びの声を紹介します。

「これまで自分の都合で教会から足が遠のいており、洗礼を受けてから初聖体を授かるまで、10年以上もの時間が空いてしまいました。しかし、初聖体の日のミサでは、教会に通う皆さんが温かく祝福してくださり、改めて初聖体を受けることができて本当に良かったと感じました。」

「私の子供会の思い出」

今から約50年前、母の導きで町田教会に通い始めた頃、教会は現在では想像出来ない程大勢の子供達で溢れ返っていました。今程、物騒ではなく私は兄妹と共に子供だけでバス、徒歩で教会に通っていました。毎週土曜日、午前中に学校が終わり、昼食後に出発です。バス行先相違がないか、バス代を持ったか、子供3人で教会へ通う事はちょっとした冒険でした。

教会に到着するや否や、お御堂には入らず集会室で大騒ぎ。駐車場の周囲で鬼ごっこ、隣接していた消防署に侵入。神父様のタヌキ腹をパンチ、そしてミサはちんぷんかんぷん。ミサ後は高校生リーダーと神様の勉強。教会に通う子供達は学校も違い、名前もわからないお友達も大勢いましたが、それでも毎週顔を合わせる事が土曜日の楽しみでした。子供会は神様の事を遊びながら学べる場所でした。

時は流れ、時勢と共に子供会の在り方も変化してきました。

大宮教会に集う子供達が成長した時、「教会は楽しかった」と思える共同体を目指し、今後の信仰生活を歩み続けていきたいと思っています。

西区　秋月



編集前期

編集担当　川目です。齢60を越えて、いろいろな経験をさせていただいています。つらいことも悲しいことも主のお恵みだと思うとうれしい限りです。でも、できれば楽しいことだけにしていただけると助かります。怒られますね。

皆さんからの投稿をお待ちしています。生活中での出来事などを気軽にお寄せください。槻田・川目お声がけください

【広報部から】皆様のご意見・ご感想をお寄せください　Mail kouhou_rec@catholic-omiya.org

信徒委員会

○信徒総会

信徒総会11月22日（日）主日のミサの後に行います。ミサが終わったら退席せず、そのままお待ちください。できるだけ参加をお願いします。

○ミサについて

11月26日（木）27日（金）の朝ミサはお休みです。

○クリスマス・年末年始の予定

12月24日(木)
降誕祭夜半ミサ　19：00～
12月25日(金)
降誕祭日中ミサ　11：00～
1月1日(金)
元旦ミサ　11：00～
ベトナム語ミサ　14：30～
平日の朝ミサは年内の最終は12月18日（金）、年明けは1月14日（木）からです。

各部からのお知らせ

○典礼部から
クリスマスの馬小屋と　イルミネーションの設置

特にイルミネーションの人手が足りません。若い方のお手伝い（外国籍の方も）をお願いします。

○デコレーション部から

ウェイン司教様に歓迎の気持ちを込めて、司教様のお好きなメジャーリーグチーム、レッドソックスをモチーフにしたカードを作りました。メッセージをお書きになって、箱に入れてください。当日デコレーションします。

○毎日のミサの年間購読について

「毎日のミサ」の年間購読を個人でされている方へご提案です。大宮教会で「共同購入」をされませんか。共同購入されることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、教会使用分の補填が増えます。どうぞご検討ください。尚、大宮教会の共同 購入の期間は、新年度からとなります。 申し込みは、来年2月よりお受けします。 ご不明な点はご遠慮なくお問い合わせください。

「毎日のミサ」購読係　須田

クリスマスコンサート　ラールゴ・コンパーニョ

目時：26年12月20日(日)開演13：00
会場：カトリック大宮教会パウロ聖堂
（さいたま市大宮区高鼻町2丁目350）
アクセス案内 JR大宮駅東口より徒歩20分
タクシー10分
※タクシーを利用される方は、行き先を「カトリックみどり幼稚園」と告げてください

◇出演者◇
今井由美子　小見山圭　佐々木公子
松村伴子　目黒美範　吉村和子
石田修一（ピアノ）　山城敏子（司会）

◇曲目◇
クリスマス讃美歌メドレー
パニスアンジェリクス／アヴェ・マリア
鳥の歌／聖夜　他



平和旬間の講話

11月8日東ブロックの平和旬間の講話が、「平和を作る人々」と題して、上智大学名誉教授の山岡三治神父様を講師に大宮教会で行われました。参加者は約25名ほどでしたが、大変良いお話を聞けたと好評でした。



ウェイン司教様の黙想会

以前（2005年～2010年）大宮教会の主任司祭をされていた那覇教区のウェイン・バーント司教様をお呼びし、降誕祭の黙想会を行います。

11月29日（日）
10：00～　黙想講話
11：00～ミサ
ミサ後　歓迎パーティー

＊ミサ後に歓迎パーティーを行います。みんなで司教様を囲んで、復興支援カレーやベトナムの春巻きを楽しみましょう



https://www.naha.catholic.jp/bishopintro/





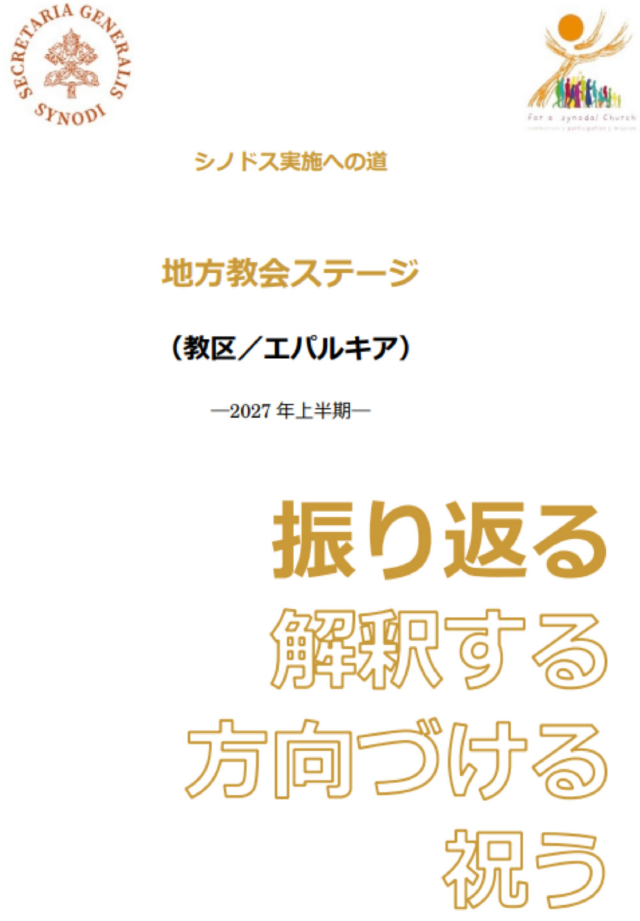
世界代表司教会議（シノドス）実施ステージを詳しくお知りになりたい方はこちらから

「シノドス」
（Synodus Episcoporum＝世界代表司教会議）とは
（抜粋）

「シノドス」とは、「ともに歩む」という意味のギリシア語で、一定時に会合する司教たちの集会のことです。教皇と司教たちとの関係を深め、信仰および倫理の擁護と向上、規律の遵守と強化のための助言をもって教皇を補佐するために開かれます。またそこでは、世界における教会の活動に関する諸問題を研究します。

シノドスは、第二バチカン公会議教父たちの要望にこたえて、公会議の体験によって生まれた積極的な精神を生き生きと保つために、1965年、教皇パウロ六世が自発教令『アポストリカ・ソリチトゥード』（1965年9月15日）によって設置したものです。『カトリック新教会法典』では、342条～348条に、世界代表司教会議に関する規定が述べられています。なお、第12回通常シノドス（2008年）から、2006年に改訂された『シノドス規則』が実施されています。

シノドスは、提起された問題を討議し、教皇に意見を具申しますが、決定機関ではありません。会議に関する権限は、すべて教皇にあります。会議の招集、代議員の指名・任命、会議要綱の決定、会議の主宰、閉会、延期、解散などは教皇の権限によって行われます。



出展　https://www.cbcj.catholic.jp/catholic/holyyear/synod2023/

✝　サモア～主に呼ばれて～　(52)　✝

なかなか記憶だけでは、思い出すのが難しくすっかり忘れていましたが、海外青年協力隊の隊員が私の学校に赴任することになりました。確か6月末か7月初旬にサモアに入国して、サモアでの現地研修を3週間程度受けていたように記憶しています。

8月に入ったか、入らないかくらいに学校に来ました。名前はスガシ君。本名は漢字で書きますが掲載してよいか確認が取れないので、ここではカタカナで表記します。日本の高校で非常勤講師をしていて、青年協力隊に申し込んだとのことでした。

日本の海外青年協力隊はそのころは知名度が上がり、申し込みも増えてきたようで、社会人経験がないと申し込めないようでした。日本では語学研修と発展途上国に行くにあたっての注意事項のような研修があったそうです。とはいえ、語学研修も3か月の集団研修なので、英語で授業するのには不安があったようです。そこで、着任してからは時々数学で使う英語の表現を一緒に確認していました。

あるとき、ボランティアハウスのラウンジで、円周だったか何だかの英語を確認してたところ、その話を聞いていたオーストラリア人のボランティアが「まさ、それは円周という意味ではないよ」と教えてくれました。私たちは日本語を交えて話していたのに、断片的な英語を聞いて指摘したのにはびっくりしました。

サモアに来ている青年海外協力隊は10人以上はいたと思います。音楽や数学の先生、空港の管制の手伝いのようなことをしているという人もいました。

また、国際協力機構（JICA）の専門家としてもう少し高度な技術支援をする方も来ていました。上尾市から派遣されている方は道路工事のスペシャリストでした。

日本からはサモアは貿易額も少ないし、距離的にも遠いのであまり意識はしていないと思いますが、サモアでは空港や橋を日本の援助で作ったので、日本人に対しては良い印象を持っているようです。首都にある橋の名前はNIPPON Bridge（日本橋）と書かれていて、日本の支援で作られたと看板にも書かれています。

彼が来てからは良いことがありました。サモアには大使館はないので、国際協力機構の事務所がその役割もしているようでした。そこには図書室があり、事務所の方が帰国した折や日本にいる知り合いから送られてきた日本の本がたくさんありました。その図書室を利用してよいと言われました。同じ学校に協力隊の方が来なければ、図書室はおろか、事務所があることさえ知りませんでした。

それからは、毎週火曜日の買い物の日に、まずJICAの事務所によって、文庫本を数冊借りてから、買いものに行きました。そのころは、林望さんという書誌学者が書いた「イギリスは愉快だ」や「イギリスはおいしい」という本が売れていたようで、私たちも読み、私はすっかり気に行ってしまいました。ちょうどオーストラリアで生活した後だったので、書かれている内容がよく分かり、楽しかったです。

イギリスの食器の洗い方などは、「そうそう」と思いながら読んでいました。以前も描きましたが、台所の流しは2つに分かれていて、片方にお湯をはり、洗剤を入れてそこに食器を入れて洗い、反対のシンクにお湯だけをはり、すすぎます。すすぎの水は流水ではないのですが、ある家では片方のシンクで洗うだけで、そのあとすぐにふき取ってしまう家がありました。そのことが書いてあり、さらにイギリス人はシャワーで体を洗った後、石鹸を流さず体をバスタオルで拭くだけと書かれていました。

食器も体も同じなんだと思いました。また、鼻をすするのはマナー違反なので、鼻をよくかむらしいです。日本だとティッシュでかみますが、イギリスではハンカチが鼻をかむためのものとのことです。ハンカチでかむとハンカチが汚くなりそうですが、ハンカチは鼻をかむためのものという位置づけだそうです。手を洗った後は家だとタオルで拭く、外出先はティッシュやペーパタオルで拭くそうです。日本と反対ですね。食器はすすがなくても、我慢できますが、体はシャワーで石鹸を流さないといやですよね。文化は違うから面白いです。

見沼区　齋藤

おおみや教会通信はカトリック大宮教会のＨＰ
（https://catholic-omiya.org）でご覧になれます。
ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）
を募集しています。FAX・郵送・電子メールで受け付けています
〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町２丁目３５０
カトリック大宮教会　広報部宛
FAX 048－641－2724　Mail kouhou_rec@catholic-omiya.org